

Daily Macro Economic Insights

鉱工業生産(2025年6月速報)

2025年8月1日

生産は3か月ぶりに増加、予測調査は増加を示唆するが、先行きには留意

6月生産は前月比+1.7%と3か月ぶりに増加、予測調査は増加を示唆するが...

鉱工業生産(25年6月速報)は前月比+1.7%と3か月ぶりに増加、前年比は+3.6%と4月以来2か月ぶりの増加となった。経済産業省は「生産は一進一退」と引き続き基調判断を維持している。業種別生産は全15業種のうち8業種が増加、7業種が低下という結果となり、特に輸送機械工業(自動車除く)が前月比+14.8%、寄与度+0.33%ポイントと増加に寄与した。一方で低下品目は自動車工業、電気・情報通信機械工業、無機・有機化学工業といったところである。出荷は前月比-0.8%、前年比+3.5%、在庫は前月比-0.4%、前年比-3.1%となった。稼働率(5月)は引き続き前月比は増加したが前年比は減少となった。生産能力実績は24年3月以降、前年比で減少が続いている点は不変である。

先述の通り、6月生産は前月比で増加したが、4月・5月は減少を続けたこともあって、4-6月生産平均値の対1-3月平均比伸び率は+0.3%と微増にとどまっている。生産予測調査によれば、7月の生産見通しは前月比+1.8%(補正値は-1.0%)、また8月の生産見通しは同+0.8%とのことである。6月の補正値は同-1.9%であったが、先述のとおり実績値は同+1.7%と大幅に上振れた。だが生産の実績値は見通しよりも低くなる場合の方が圧倒的に多い。

生産見通し通りであれば、堅調な伸びが期待されるものの、先行きについては米国との15%の相互関税が決まったこともあり不安材料も大きい。生産が減少した乗用車の先行きも含め、注意が必要といえよう。

図表1: 鉱工業指数(生産・出荷・在庫・在庫率、生産能力実績、稼働率)の概要 (%, 変化率)

		生産		出荷		在庫		在庫率		生産能力実績 (製造工業)	稼働率(製造工業)	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前年比	前月比	前年比
2023年	7	-1.4	-2.6	-1.3	-2.0	0.2	5.5	0.8	9.8	0.3	-1.7	-2.1
	8	-0.4	-4.7	-0.2	-3.1	-1.1	3.0	-0.5	9.2	0.1	0.1	-3.7
	9	0.1	-4.5	0.6	-2.4	-0.9	0.0	-1.2	4.3	0.0	0.1	-4.3
	10	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.8	-0.2	4.1	0.2	-0.4	-1.4
	11	-0.6	-1.6	-0.8	-1.7	0.0	0.9	1.5	6.3	0.2	0.7	-3.0
	12	1.2	-1.1	1.6	0.2	-0.9	-0.5	-2.3	2.3	0.3	0.2	-3.3
2024年	1	-7.0	-1.5	-7.5	-1.7	-1.7	-1.8	2.6	0.8	0.1	-7.9	-4.6
	2	0.3	-3.9	-0.7	-4.7	0.6	-1.7	-5.6	1.9	0.1	-0.5	-6.2
	3	3.5	-6.2	4.7	-6.8	1.0	-1.0	7.6	6.8	-0.2	1.3	-11.2
	4	-0.6	-1.8	-0.4	-1.4	-0.2	-2.4	-0.7	0.5	-0.2	0.3	-6.8
	5	1.1	1.1	3.9	1.3	0.9	-2.1	-1.2	-1.5	-0.3	4.1	-1.8
	6	-1.2	-7.9	-4.7	-8.1	-0.7	-2.7	1.7	4.8	-0.6	-3.1	-10.0
	7	1.8	2.9	2.7	2.0	0.4	-2.5	-2.4	-3.9	-0.8	2.5	-0.1
	8	-2.0	-4.9	-4.1	-6.5	-0.8	-2.2	5.3	5.9	-1.0	-5.3	-9.9
	9	0.7	-2.6	2.4	-4.2	0.1	-1.3	-3.8	3.0	-1.1	4.4	-5.1
	10	1.8	1.4	2.6	0.4	0.0	-1.3	-0.9	-0.4	-1.1	2.6	-0.1
	11	-1.7	-2.7	-2.5	-3.6	-1.0	-2.2	3.2	2.7	-1.6	-1.9	-5.0
	12	-0.3	-1.6	0.2	-2.7	-0.7	-2.0	-1.4	2.1	-1.6	-1.8	-2.8
2025年	1	-1.1	2.2	-1.5	2.0	2.0	0.7	0.1	1.2	-1.9	4.5	4.2
	2	2.3	0.3	3.0	1.6	-1.7	-1.4	-3.5	0.4	-2.2	-1.1	1.1
	3	0.2	1.0	-1.8	-0.3	1.2	-0.7	4.4	0.6	-1.9	-2.4	0.8
	4	-1.1	0.3	0.1	0.0	-0.8	-1.1	-0.6	0.5	-2.0	1.3	2.3
	5	-0.1	-2.8	2.4	-2.5	-1.8	-3.1	-1.1	1.7	-2.3	2.0	-1.2
	6	1.7	3.6	-0.8	3.5	-0.4	-3.1	0.8	-1.6	-	-	-

出所: 経済産業省より筆者作成。生産能力実績、稼働率は5月確報値の結果である。

生産の動きは一進一退、輸送機械の生産拡大の本格化がいつ生じるかがカギ

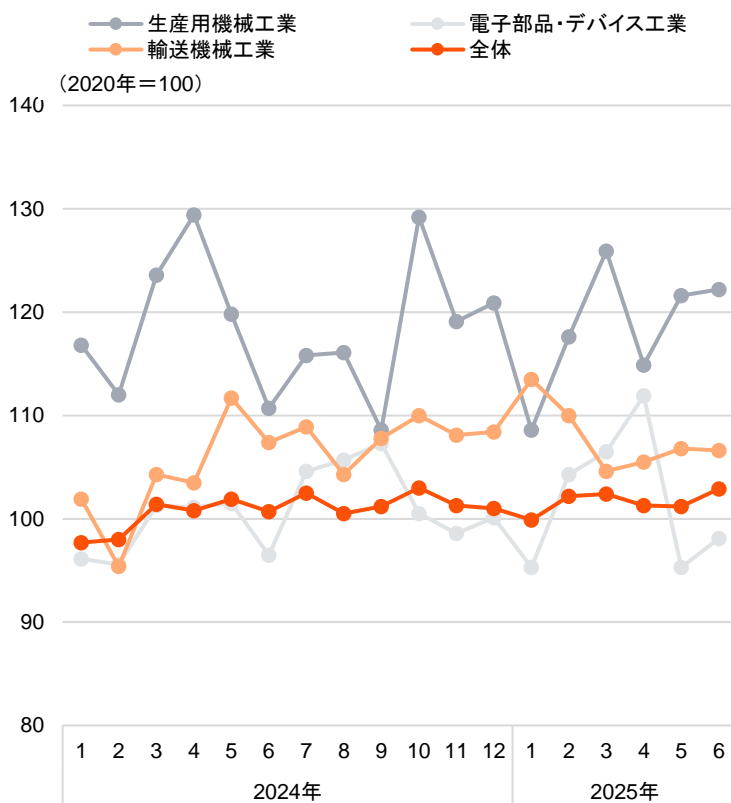
業種別生産の動き(図表2)をみると、6月の生産は前月比+1.7%と持ち直したものの、引き続き横ばい圏内で推移する状況は変わっていない。輸送機械工業は乗用車の減少が寄与して6月はわずかに減少し、4月以降の回復基調は鈍化している。2024年後半の水準にはまだ遠い模様だ。電子部品・デバイス工業は2025年1月以降増加を続け、4月には2024年の水準を一旦上回ったが、5月以降は停滞が続く。生産用機械工業は1月は大きく減少したが、2月以降は半導体製造装置の生産増加を主因に持ち直している。全体として、鉱工業生産の動きは横ばい圏内にある。

図表3は業種別在庫率の動きをまとめている。鉱工業全体の在庫率も横ばい圏内で推移している。電子部品・デバイス工業の在庫率は4月以降低下した、輸送機械の在庫率の低下トレンドは健在であり、鉱工業全体の在庫率の平準化に寄与している。

製造工業生産予測指数について産業別にみると、2025年7月及び8月については、電子部品・デバイス工業、パルプ・紙・紙加工品工業が全体を牽引する形となっている。特に集積回路の増産が見込まれていることが予測指数の拡大に大きく影響している模様だ。

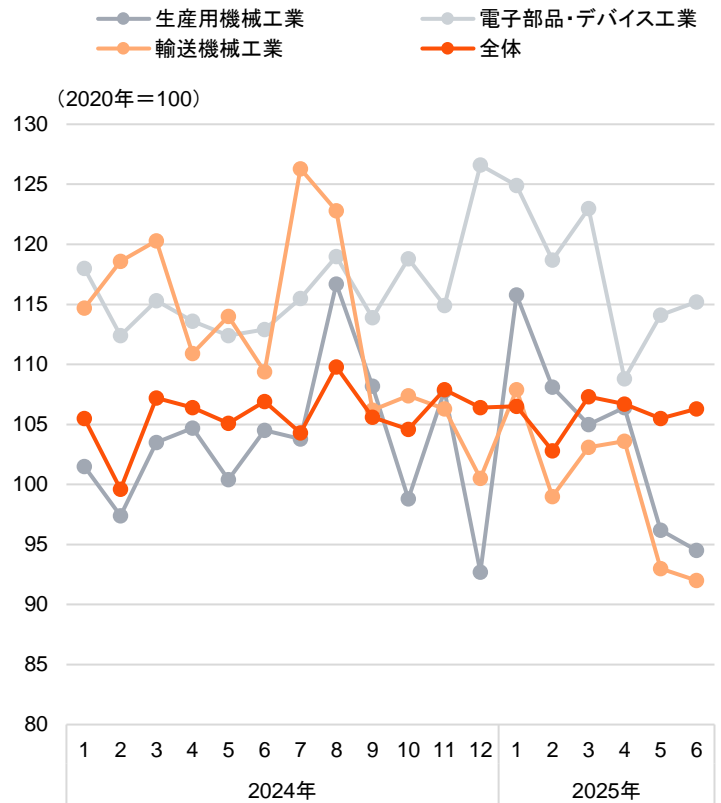
企業のアニマルスピリッツ指標の動きをみると、6月のDI(原系列)は-0.7%とマイナスが続くものの、5月の-2.5%からは改善した。変動を均したトレンドでは、DIは-1.9%と低下が進む。トレンドの動きをみる限り、アニマルスピリッツ指標は今年2月以降悪化が進んでいる状況である。景気後退局面が意識される-5%を上回っているとはいえ、トレンドの動きは低下が進んでいる点には留意しておくべきだろう。

図表2: 業種別生産(季節調整値)



出所: 経済産業省より筆者作成。

図表3: 業種別在庫率(季節調整値)



片岡 剛士

チーフエコノミスト、上席執行役員
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤

シニアエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel: 03-6257-0700